

【目的】演者らは被服製作技能に関する知識や技能について検討を行ってきた。¹⁾²⁾この過程で、知識・技能とも年齢が上がるにつれて男子は低下、女子は上昇する傾向を示すことがわかった。今回は小学生から大学生までの男女を対象に“まつり縫い”の縫い方による形状差および男女差についてVTR利用による画像解析を行うとともに、指導時期について検討することを目的とした。

【方法】①被験者；小学校5年生、6年生、中学校2年生、高校1年生、大学生の男女を対象とした。②方法；家庭科で学習する“本まつり”と“たてまつり”について被験者に縫目を作製させた。そしてその試料についてVTR利用による画像解析を行い、縫目を縫目の長さ、縫目傾斜角度、縫目間隔、逸脱度の4項目から検討した。

【結果】(1)本まつり裏目①縫目の長さ；男女とも年齢が上がるるとともに短くなる傾向を示し、どの年齢グループでも男子>女子となった。②縫目傾斜角度；男子は年齢に関係なくほぼ同じになったが、女子は年齢とともに小さくなった。また小学校5年生では男女ともほぼ同じ値を示したが、それ以外の年齢グループでは男子>女子となった。(2)たてまつり表目①縫目の長さ；男女とも年齢が上がるるとともに短くなる傾向を示し、どの年齢グループでも男子>女子となった。

1)日景, 中館; 日本家政学会第41回大会研究発表要旨集 p.212(1989)

2)日景, 中館, 鳴海; 日本家庭科教育学会第32回大会研究発表講演要旨 p.30(1989)